別記第７号様式

地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	積丹町

１　地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）　　（　　５年計画のうち　２年目）

実施地域	市町村名：積丹町 民間団体名：東しゃこたん漁業協同組合、新おたる漁業協同組合、積丹町乳牛検定組合、積丹町地域間交流推進協議会、積丹ソーラン味覚祭り実行委員会、どっこい積丹冬の陣実行委員会、積丹町地場産品販売促進協議会、積丹町商工会、積丹観光協会	計　１市町村 １０団　体
プロジェクト名：しゃこたんブランド強化プロジェクト	格差の分野：　地域経済の格差	
地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標	◆ 地域の課題 ■人口減少及び高齢化 ・基幹産業（漁業・農業）の衰退により、所得水準が低下したことで、雇用を求めて町を離れる住民が増加し、人口(主に若年者)の減少、高齢者増加が進行。 ＜人口　Ｈ７:3,648 人→Ｈ１７:2,860 人　高齢化比率（37.4%）・若年者率（8.6%）＞ ＜農家一戸当たりの生産農業所得　　Ｈ７：１８８万円→Ｈ１７：１６２万円＞ ＜一漁業経営体当たりの漁業生産額　Ｈ７：５４２万円→Ｈ１７：５１３万円＞ ■町財政の悪化 ・地域経済の低迷や町財政の悪化(歳入減・医療福祉費の増嵩など)により、雇用創出のための新たな事業等を展開していく余剰財源がない。 ＜Ｈ１７年度連結赤字比率:道内市町村ワースト４） →町の再生には、地域を支える基幹産業（漁業・農業）を持続的に発展させることが重要であり、そのためには、収益性の高い安定した経営の確立と、次代を担う優れた担い手の確保に取り組むことが必要。 ◆ プロジェクトの目標 ■水産振興対策 ・輸入物の影響により価格が下落している「生ウニ」を、今後も安定した収入を確保する水産物として維持していくため、安心・安全な生産体制づくりの構築をすすめ、「しゃこたん 生うに」のブランド強化を図る。 ・ニシン稚魚の放流により、町が最も繁栄していた時代のシンボルである「ニシン漁」の復活を目指すほか、ホッケやナマコなど新たなブランド産品の発掘・開発に取り組む。 ・町内小学生を対象に乗船体験や刺し網おこしなどの漁業体験教室を開催し、次代を担う漁業後継者の育成、担い手確保に取り組む。	

	■農業振興対策 ・乳牛の改良を進めながら乳量の高品質化を図り、肉牛生産では全国的にも生産量の少ない「短角種」の生産及びブランド化を目指す。 ・農家への優良堆肥の供給体制の構築により、安心・安全な高品質のジャガイモやカボチャを提供することで所得の向上を目指す。 ■しゃこたんブランドＰＲ ・町と各団体（漁協、農協、観光協会、商工会等）と連携し、各種イベント等を通して水産物、農産物を地域ブランドとしてＰＲし販路拡大を図る。
取組の成果	住民等の評価 農・水・観の関係団体と町で構成する「産業まちづくり懇話会」を２回開催し、各団体が関係者からの意見集約を行い、プロジェクトの構築、地域振興が図られた。　町をあげた集客イベントである「積丹ソーラン味覚祭り」や「どっこい積丹冬の陣」などは、町内会や地域コミュニティ団体など地域住民が参加した実行委員会方式により企画・実施することにより地域住民の“協働のまちづくり”に関する意識醸成が図られ、イベント開催による入り込み客の増加や知名度アップ等の波及効果による地元飲食店等での消費向上の結果、一定の所得確保につながったことなどから住民の評価も高い。　一次産業においてはウニに関する資源確保対策や密漁防止対策、ミニトマトに関する生産技術向上対策などにより、前年度を上回る所得が確保されたことなど“しゃこたんブランド”構築に向けた取り組みが浸透してきており、住民の意欲向上が感じられた。
	計画に対する達成度 ■水産振興対策 ・一昨年、漁獲量が大幅に落ち込んだイカやブリなどの主要魚種については回復をみせ、ホッケ・タラ等の刺網漁業が好漁であったことなどから前年に比べ水揚量で 24%増の 3,464 トン、水揚高で 27%増の 13 億 6 千万円であった。ウニについては計画的な資源放流と密漁防止対策に取り組んできたことから、水揚量、水揚高ともに前年に比べ増加となり、漁家収入の安定確保と「しゃこたん生ウニ」のブランド構築が図られた。 ・地域を支える基幹産業の一つである漁業において、漁協青年部が町内児童を対象に乗船、網はずしなどを実施し、漁業をより身近に、楽しみながら体験させることで、子どもたちから「将来は漁師になりたい」といった話しも聞かれるなど次代を担う後継者の育成に明るい兆しが見えつつある。 ・ニシン稚魚の放流は、生存率を高めるため本年度から体長６ミリ以上の優良稚魚を購入し、本年度については、平成１６年度からの放流効果として水揚量、水揚高ともに前年に比べ大幅に増加し事業効果が明確に表れ、資源増大に明るい兆しが見えつつある。 ・保護水面に指定されている積丹川・余別川を常時巡回し、河川環境条件の保全に努め、さけ・ます等の資源確保が一定程度図られた。 ■農業振興対策 ・畑作については、優良堆肥の活用による低温・干ばつに強い土作りの推進など栽培技術の向上と販売戦略など継続的な取り組みから例年並みの生産額が確保され、農家の安定収入が図られた。 ・全国的に生産量が少ない「短角種」の契約生産、契約販売により安定した経営と生産性が図られ、ブランド力の強化につながった。 ・生乳生産量の減産体制が続き、離農者や乳牛数の減少など厳しい現状にある中、乳牛の個体能力を把握し計画的な経営指導や淘汰更新により、生乳生産額については、前年度比ほぼ同額が確保された。 ・積丹町で生産される農畜産物の品質の高さや、“しゃこたん”の魅力ある気候風土と地域資源の将来性から、新たに町外から３世帯が就農した。

■しゃこたんブランドＰＲ

・平成２０年６月の「積丹ソーラン味覚祭り」や１１月から年末にかけての「どっこい積丹冬の陣」、また道外・海外旅行業者向け商談会への参加など各種イベント等を通したツアー誘致とともに農水産物を地域ブランドとして広くＰＲした。また、積丹半島体験ツアーのプログラムづくりのためのモニターツアーを開催するなど新たな地域資源の発掘及び観光ルート確立を目指した取組を行った。

・積丹ソーラン味覚祭りなどの町内外での各種イベントや国内外旅行業者向け商談会での観光パンフレットやポスター掲出のほか、道内外の旅行代理店や観光案内所へ観光パンフレットの送付。また、観光フォトコンテストを実施し、入賞作品をホームページや写真雑誌に掲載するなど自然や人など地域資源の魅力を各地方へ発信し、積丹町のイメージ浸透とツアー誘致に向けたＰＲに繋がった。

具体的な効果

■水産振興対策

・平成１６年から取り組んでいるニシン稚魚の放流は、平成２０年度は水揚量４６．１トン、水揚額２，０２２万円と、前年対比３７．９トン、１，５５１万円の増と放流事業の成果が明確に表れてきてきたものと思われる。

・町の主産物の一つであるウニは、平成２０年度の水揚量２８．７トン、水揚額２７，５８０万円と、前年対比４．３トン、３，７７９万円の増となり、禁漁区の設定など計画的な資源放流と密漁防止対策に取り組んできたことから前年を上回る水揚量が確保された。

■農業振興対策

・農産物販売実績は、農家戸数が減少傾向にあるなか、栽培技術の向上と販売戦略などの取り組みから、ミニトマトは前年対比１０６．１%の販売実績となるなど概ね前年並を確保することができ、安心・安全で高品質な地域ブランドの構築により、農家の安定収入が図られた。

・２７１ヘクタールと広大な町営牧野を活用した省力・低コスト生産化や個体成績のデータに基づく淘汰更新・育種増強、計画的な経営指導より、ニセコ町で開催された第５７回後志共進会肉用牛の部において昨年の最高位に引き続き、準最高位と上位入賞を果たした。

■しゃこたんブランドＰＲ

・平成２０年度における観光客入込数は、これまでに経験のない燃油価格の異常な高騰などにより、当町のみならず後志管内で前年対比４．５%減など北海道全体において減少となった。当町においても北海道で唯一指定された海中公園を遊覧する水中展望船の平成２０年度年間利用者数は、夏場の長雨、燃油価格の高騰などの要因により２万６千人と前年対比５%の減少となったが、香港や台湾のツアー客が２，４４２人と全体の１割を占めその割合は年々増加している傾向にある。

・海外旅行業者向け商談会では、観光パンフレットの配布やポスターのよるＰＲのほか、自然景観や町内行事・イベント等を収録したＤＶＤ映像によるＰＲを行ったところ、多くの業者が興味を示し、積丹の知名度アップに繋がった。

交付金支援期間終了時の成果目標に対する現時点での達成状況

・農家一戸当たりの生産農業所得　【H18】１３３万円→【H21】１４２万円
→【H20】１１８万円（達成率０%）

・一漁業経営体当たりの漁業生産額　【H17】５１３万円→【H21】５２２万円
→【H20】５２０万円（達成率 77.8%）

・観光客入込数　【H18】１１７万人→【H21】１２４万人
→【H20】集計中

プロジェクト推進上の課題・問題点	課題点等 ■水産振興対策 ・漁業生産実績は、依然として厳しい状況が続いているが、本年は前年に比べ２７％程の回復がみられた。 ・ウニ、アワビなど磯資源やニシン稚魚の生存率の向上のため、藻場環境の回復に向け、磯焼け対策が課題。 ・貴重な磯資源や保護水面の密漁監視体制の確立を図るには、地域が一体となった体制づくりが望まれる。 ■農業振興対策 ・畜産において、生乳生産量の増産は、収入確保に直結するところであるが、これまでの減産体制からの転換は酪農家の離農による乳牛数の減少などから、生産量が停滞しており厳しい現状にある。 ・畑作においては、主産物である馬鈴薯の品質において、いわゆるＢ級品の割合が高く、安定した高品質化が求められている。 ・南瓜やミニトマトなどのブランド化が確立しつつある品種について、遊休農地を活用した耕作面積拡大を図りたいが、高齢化の進展や後継者、労働力が不足している現状にある。 ■しゃこたんブランドＰＲ ・観光ツアー誘致に向け、各種イベントや商談会に積極的に参加し産地情報ＰＲに努めているが、海外においての「しゃこたん」ブランドの認知度がまだまだ低い状況にある。 ■プロジェクトの推進には、当面町が補助金等など側面からの支援体制により、将来的に関係団体や地域住民が事業主体となってプロジェクト事業を展開する地域住民の意識の醸成を目指しているが、町の財政健全化計画の策定などにより、雇用創出のための新たな事業等を展開していくための余剰財源がない。
	課題を踏まえた今後の展開 ■水産振興対策 ・悪質なダイバーなどによる密漁対策が急がれる中、資源確保のため昨年４月、美国地区漁協青年部が中心となり、地元漁業関係者や当町に拠点を置く良質なダイバー、東海大学、行政機関などで構成する「美国・美しい海づくり協議会」が設立した。今後、「しゃこたん 生うに」などブランド強化に向け、産学官が連携しながら、密漁監視や磯焼け対策、一般の方を対象とした漁業・自然体験プログラムの開催など漁業の持続的発展のため、同協議会が中心となって、水産動植物の成育環境保全、水産資源の適切な保存管理などを包括的に実施する。 ・昨年２月、余別漁港に冷凍冷蔵施設が完成し、これまで未利用資源であった小型ホッケの有効活用などにより魚価の安定による漁業経営の一層の安定向上が図られることが期待されている。また本年度実施した水産物鮮度保持向上施設の整備により、当町のブランド「積丹ウニ」の品質の安定保持と、水産物流通市場における信頼性の維持向上を図りつつ今後の成果に期待を寄せている。 ・森を元気にし、豊かな海づくりを目指し昨年４月、積丹地区漁業青年部を中心に、町内会や老人クラブなどさまざまな地域団体や町、また地域行事等に参加し以前から交流のある北海道大学などで構成する「森・海ＨＵＧくみたい」が設立し、産学官が連携しながら植樹や育樹など豊かな森づくりに取り組む。

	■農業振興対策 ・畑作については、契約栽培、契約販売の戦略的な取り組みの中で、作付面積が固定化されてきていることから、冬至用カボチャとして一時保管し時期をずらして出荷するなど他との差別化を図り、限られた生産量の中でブランド化、付加価値化を確立し、優位性を生かした取り組みを行う。また優良堆肥の特性を生かした有機、減農薬栽培方法により、生産地における食の安全・安心対策が最も重要視されている情勢からも、更なる生産性の向上と効率化を図るとともに、高品質化の畑作物の生産による生産所得の向上に努める。 ・引き続き広大な町営牧野を活用した省力・低コスト生産化や個体成績のデータに基づく淘汰更新・育種増強、計画的な経営指導に努めるとともに、新規就農者の確保により持続可能な酪農・畜産体制の構築に努める。 ■しゃこたんブランドＰＲ ・町内外の各種イベントや国内外旅行業者向け商談会などに積極的に参加しＰＲ活動に努めるとともに、観光フォトコンテストやホームページを活用し各地方へ情報発信し、しゃこたんブランドの魅力を幅広く広めていく。 ・豊かな自然と恵みで新たな観光分野としての拡充を目指し、温泉や森林、海洋資源などを活用した医学的・科学的根拠に基づく健康回復、維持、増進効果が得られるなど近年注目が集まっているヘルスツアーや地域らしさを生かした体験・交流型観光を推進し、国内外からの観光客誘致と環境づくりに取り組む。 ・町内に現有するニシン漁当時を偲ばせる建物の修繕・保存活動を通し、当該建物の活用による地域の活性化を図ることを目的に、昨年１０月地元の有志が中心となり「積丹町美国鰊場遊歩道「やん集小道づくり」推進協議会」が発足、今後、歴史的な資源を活用した新たな観光資源の発掘により文化・歴史面での「積丹ブランド」の構築を図る。 ■今後も「産業まちづくり懇話会」を中心に地域振興策を企画・実施するにあたり、プロジェクトの構成事業を見直し、対象事業を整理しプロジェクト実現に努める。

２　地域再生プロジェクト構成事業（今年度実施分）

（１）実績額について

（単位：千円）

No	事業名 実施主体 実施年度	事業費	財源内訳					交付金要望額
			国の支援制度	道の支援制度	市町村補助等	自己財源	その他	
1	ニシン稚魚放流事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　１，９８４） ４５５	（　　）	（　　）	（　７８９） ２２７	（１，１９５） ２２８	（　　）	（　４６１） ２２７
2	エゾバフンウニ種苗放流事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　２０，２４３） ３，７９３	（　　）	（　　）	（９，６４０） １，８０６	（１０，６０３） １，９８７	（　　）	（６，０２０） １，８０６
3	密漁防止対策事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　４，３３７） ６２０	（　　）	（　　）	（１，７５６） ２９９	（２，５８１） ３２１	（　　）	（　１，００７） ２７３
4	漁場環境保全推進事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　５，４１６） １，１１５	（　　）	（　　）	（５，４１６） １，１１５	（　　）	（　　）	（　　）
5	保護水面管理事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　６，０３８） ７６９	（　　）	（　　）	（１，１９５） ０	（４，８４３） ７６９	（　　）	（１，１９５）
6	美しい海づくり推進事業 町 ２０年度～２３年度	（　　０） ０	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
7	いきいき水産教室 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　８５４） １０４	（　　）	（　　）	（　　）	（　８５４） １０４	（　　）	（　　）
計	事業数［　　］ 実施主体数［　　］	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）

注　１　プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
　　２　記載に当たっては、別記第２号様式に準じること。

２　地域再生プロジェクト構成事業（今年度実施分）

（１）実績額について

（単位：千円）

No	事業名 実施主体 実施年度	事業費	財源内訳 国の支援制度	道の支援制度	市町村補助等	自己財源	その他	交付金要望額
8	げんきの森推進事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　４，５０１） １，０９７	（　　）	（　　）	（　　）	（　　） ０	（４，５０１） １，０９７	（　　）
9	ナマコ資源現況調査 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　　０） ０	（　　）	（　　）	（　　）	（　　０） ０	（　　）	（　　）
10	ホッケ付加価値向上事業 東しゃこたん漁業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　　６１） ０	（　　）	（　　）	（　　）	（　　６１） ０	（　　）	（　　）
11	ブランド産地確立事業 新おたる農業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　１，９８２） ３５５	（　　）	（　　）	（　９０１） １５１	（１，０８１） ２０４	（　　）	（　３５０） １５０
12	乳質向上対策事業 新おたる農業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　３０，１４７） ７，７６８	（　　）	（　　）	（１０，１６６） １，６３６	（１９，９８１） ６，１３２	（　　）	（２，０５８） ５００
13	乳牛検定組合運営事業 積丹町乳牛検定組合 １９年度 ～２３年度	（　８，２５６） １，４２１	（　　）	（　　）	（１，６８０） ３２０	（６，５７６） １，１０１	（　　）	（　７２０） ３２０
14	家畜ふん尿利活用推進事業 新おたる農業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　１２，０２７） ２，８０５	（　　）	（　　）	（５，８６９） １，３１５	（６，１５８） １，４９０	（　　）	（２，２７４） １，１４０
計	事業数［　　］ 実施主体数［　　］	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）

注　１　プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
　　２　記載に当たっては、別記第２号様式に準じること。

２　地域再生プロジェクト構成事業（今年度実施分）

（１）実績額について

（単位：千円）

No	事業名 実施主体 実施年度	事業費	財源内訳					交付金要望額
			国の支援制度	道の支援制度	市町村補助等	自己財源	その他	
15	強い酪農づくり推進事業 新おたる農業協同組合 １９年度 ～２３年度	（　　９２） ０	（　　）	（　　）	（　　）	（　９２） ０	（　　）	（　　）
16	しゃこたんブランドＰＲ事業 積丹町地域間交流推進協議会 １９年度 ～２３年度	（　　６８８） ９３	（　　）	（　　）	（　４９５） ０	（　１９３） ９３	（　　）	（　　）
17	積丹ソーラン味覚祭り 積丹ソーラン味覚祭り実行委員会 １９年度 ～２３年度	（　２２，１４２） ５，２８４	（　　）	（　　）	（９，４８７） １，６１８	（１０，６６４） ２，６６６	（２，０００） １，０００	（１，０８４） １，０８４
18	どっこい積丹冬の陣 どっこい積丹冬の陣実行委員会 １９年度 ～２３年度	（　２６，２５３） ４，９３４	（　　）	（　　）	（４，４４０） １，１１０	（１６，８１３） ２，８２４	（５，０００） １，０００	（　１，１６７） ５００
19	地場産品販売促進事業 積丹町地場産品販売促進協議会 １９年度 ～２３年度	（　１８，５２８） ３，１１２	（　　）	（　　）	（　　）	（１８，５２８） ３，１１２	（　　）	（　　）
20	生き活きまつり 積丹町商工会 １９年度 ～２３年度	（　　１，１４６） ２０５	（　　）	（　　）	（　　）	（１，１４６） ２０５	（　　）	（　　）
21	しゃこたん夢あかり 積丹町商工会 １９年度 ～２３年度	（　　１，１６９） ２４９	（　　）	（　　）	（　　）	（１，１６９） ２４９	（　　）	（　　）
計	事業数［　　］ 実施主体数［　　］	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）

注　１　プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
　　２　記載に当たっては、別記第２号様式に準じること。

２　地域再生プロジェクト構成事業（今年度実施分）

（１）実績額について

（単位：千円）

No	事業名 実施主体 実施年度	事業費	財源内訳					交付金要望額
			国の支援制度	道の支援制度	市町村補助等	自己財源	その他	
22	しゃこたん鍋販売事業 積丹観光協会 １９年度 ～２３年度	（　５，２９４） ６７６	（　　）	（　　）	（　　）	（５，２９４） ６７６	（　　）	（　　）
23	積丹町グリーンツーリズム体験・交流事業 町ほか １９年度 ～２１年度	（　２５，８３２） ５，０７４	（　　）	（　　）	（２２，０４５） ４，７０７	（３，７８７） ３６７	（　　）	（　　）
24	観光ホスピタリティ推進事業 町ほか １９年度 ～２１年度	（　３６，５５５） ７，０２６	（　　）	（　　）	（３６，５５５） ７，０２６	（　　）	（　　）	（２，６６４）
25	年度 ～　　年度	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
26	年度 ～　　年度	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
27	年度 ～　　年度	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
28	年度 ～　　年度	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
計	事業数［　２４　］ 実施主体数［　１０　］	（２３３，５４５） ４６，９５５	（　　）	（　　）	（１１０，４２５） ２１，３３０	（１１１，６１９） ２２，５２８	（１１，５０１） ３，０９７	（１９，０００） ６，０００

注　１　プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
　　２　記載に当たっては、別記第２号様式に準じること。

（２）実施内容について

No	事　業　名	計　画　内　容	実　施　状　況	効　果　・　課　題	今　後　の　展　開
1	ニシン稚魚放流事業	・ニシン稚魚（６０mm） ４．５万尾放流	・5/27 美国漁港付近の海域へニシン稚魚６万尾放流	（効果）回帰率を高めるため体長60㎜までに育った優良種苗を購入し放流。漁獲量については本年飛躍的な増加がみられた。 （課題）稚魚の生存率向上に向けた藻場環境整備	道のプロジェクト事業が終了し、平成２０年度から日本海北部の漁協、市町村等で構成する組織を設立し、漁獲を目的とした放流に移行された今後においても継続的な資源放流を行う。
2	エゾバフンウニ種苗放流事業	・エゾバフンウニ （人工種苗１０mm） １７２千粒放流	・エゾバフンウニ（人工種苗１０mm） 美国地区 5/13　102 千粒放流 積丹地区 5/13　 70 千粒放流 合　計　 172 千粒放流	（効果）放流場所を海草繁茂の良好な海域に選定したことで、磯資源の維持増大による漁家経営の安定が図られた。 （課題）浅海資源の維持に向けた磯焼け対策	漁業者自らの漁場管理に対する意識向上がより一層図られるとともに、安定的な地域ブランド確立に努める。
3	密漁防止対策事業	・陸上監視 ・船外機船による海上監視 ・海岸線の夜間監視	・夜間監視（陸上） ・密漁監視旗　　１００枚購入 ・密漁監視員帽子・腕章 ３０枚購入 ・地元漁師の船外機船での自主的な海上監視	（効果）重要な資源であるウニ、アワビ等が減少傾向にある中、これら資源の密漁を未然に防止することができ、浅海資源の水揚量については全種類において増加となった。 （課題）地域一体となった体制の構築	年々悪質、巧妙化し、組織的な密漁が横行する中で、密漁監視体制の確立に向け、漁業者のみならず地域が一体となった体制づくりに努める。
4	漁場環境保全推進事業	・遊泳者や民宿等に対して不審者等の情報提供を呼びかけるチラシ等の配布 ・密漁防止ステッカー貼付車による巡回パトロール	・遊泳者や民宿等に対して不審者等の情報提供を呼びかけるチラシ等の配布 ・密漁防止ステッカー貼付車による巡回パトロール	（効果）海岸線が特に入り組んでいる神威岬を中心とした海岸線の密漁監視に重点的に取り組み、浅海資源が確保された。 （課題）地域一体となった体制の構築	年々悪質、巧妙化し、組織的な密漁が横行する中で、密漁監視体制の確立に向け、漁業者のみならず地域が一体となった体制づくりに努める。
5	保護水面管理事業	・監視員の配備 ・不法採捕者の防止 ・保護水面の環境保全及び調査 ・魚種の遡上、降海、産卵床の状況調査	・監視員１人配備（６月～９月） ・不法採捕者の防止 ・保護水面の環境保全及び調査 ・魚種の遡上、降海、産卵床の状況調査	（効果）保護水面に指定されている積丹川・余別川を常時巡回し、河川環境保全に努め、さけ・ます等の資源確保が図られた。 （課題）地域一体となった体制の構築	監視日数など規模を縮小し、引き続き資源確保に努める。
6	美しい海づくり推進事業	・潜水による磯焼け状況及び藻場調査 ・漁業、自然体験プログラム開催	・藻場調査 ・美しい海づくりフォーラムの開催（7/13） ・藻場づくり現地勉強会の開催（10／6）　ほか	（効果）漁業者と一般ダイバーによる発展的な意見交換などによりコミュニティ形成が図られた。 （課題）地域一体となった体制の構築	観光資源を有する観光業と、本町の基幹産業である水産業との共存共栄に向け、漁業者と海面利用者とが一体となった体制づくりの確立に努める。
7	いきいき水産教室	・町内児童を対象に、乗船体験や刺し網起こしなどの実施 ・児童と漁師の意見交換会	・９月２８日、余別漁港で実施 ・町内児童１６人参加 ・網外し作業、サクラマスの生態に関する講演などの実施	（効果）網はずしや箱詰めまでの一連の作業を体験することで漁業をより身近に感じてもらうことができた。 （課題）少子化及び漁獲量減少	漁業のすばらしさ、重要性を伝えながら、次世代の漁業後継者の育成に努める。

注　１　（１）に記載した番号に対応する事業について、単年度の状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。

（２）実施内容について

No	事　業　名	計　画　内　容	実　施　状　況	効　果　・　課　題	今　後　の　展　開
８	げんきの森推進事業	・町内児童を対象に、植栽・育樹体験の実施 ・標本プレート、草本マップの作成 ・広報誌の作成	・町内児童を対象に、植栽・育樹体験の実施 ・標本プレート、草本マップの作成 ・広報誌の作成　ほか ※　活動回数　５回 ※　参加者数延　168 名	（効果）森と海のつながり、森の大切さについての学習と植樹後の保育作業体験により、森林の重要性について理解を深めることができた。	漁協青年部や地域団体、町のほか地域行事等に参加するなど交流のある北海道大学で構成する任意団体を設立し、産学官が連携した森づくりに取り組む。
９	ナマコ資源現況調査	・潜水による枠取り採集 ・個体の測定調査	・漁協青年部の潜水技術をもって月１回程度の潜水調査の実施 ・潜水による枠取り採集 ・個体の測定調査	（効果）漁協青年部員の潜水技術をもって定期的な個体の測定調査を実施することで、資源管理が図られた。 （課題）乱獲による資源の枯渇防止	引き続き、漁協青年部の潜水技術を生かしながら、個体の測定調査を実施し、資源管理に努める。
10	ホッケ付加価値向上事業	・ホッケ加工品の商品化に向けた検討	・これまでに実施した、ホッケ加工試作品の販売による結果を踏まえ、ブランド品としての商品化を目指した検討	（効果）これまでに取り組んだホッケを使った試作品３種類（糠漬け、みりん干し、素干し）の真空パック詰めの販売活動などにより消費者動向の把握に繋がった。 （課題）商品化へのノウハウ不足	販売結果や購入者の声など情報を整理し、付加価値をつけた新たなブランド品としての商品化を目指し検討する。
11	ブランド産地確立事業	・消費者と産地生産者との意見交換会	・北海道肉用牛共進会参加 ・契約販売者（生活クラブ生協）との販売量、品目等協議 ・冬至用南瓜の出荷	（効果）消費者へ生産現場、土地、風景等を理解いただき、食の安全性への理解とブランド確立、流通の拡大に努め、生産基盤の強化が図られた。 （課題）収量の増大	契約栽培、契約販売による戦略的な取り組みを行い、出荷時期の調整等、他との差別化を図りブランド化を確立する。
12	乳質向上対策事業	・初任牛の導入　７頭 ・育種増強（精液）　１５０本	・初任牛導入　５戸１６頭 ・育種増強　精液購入８戸 対象頭数２６３頭 授精本数６７５本	（効果）淘汰更新により生乳生産量の減少を最小限に抑えるとともに、乳質改善、向上を図り、酪農経営の安定が図られた。 （課題）離農者や乳牛数の減少	個体ごとの乳質の更なる向上のため更新牛を導入し、優良精液による乳量の高品質化に取り組み経営の安定化を図る。
13	乳牛検定組合運営事業	・牛群検定による個体成績調査を実施 ・個体情報に基づく経営指導	・牛群検定による個体成績調査 検査員立会　延１０８回 乳成分測定　延2，９８９頭 ・個体情報に基づく経営指導	（効果）乳牛の個体能力の把握により、乳質の安定促進を図るとともに、酪農生産基盤の強化が図られた。 （課題）離農者や乳牛数の減少	定期的な検査で得られた個体成績のデータに基づき、優良牛、更新牛を選定個体し、生乳の生産性の向上と経営の安定化を図る。
14	家畜ふん尿利活用推進事業	・家畜ふん尿堆肥導入 １，６００㎥	・家畜ふん尿堆肥　２，０５５㎥ 堆肥供給農家　９戸 堆肥導入農家　１４戸	（効果）低温・干ばつに強い土づくりのため、良質堆肥の製造技術を構築し、供給体制の整備とあわせ家畜ふん尿の有効な利活用が図られた。 （課題）酪農・畜産農家の減少	牛群改良等による優良牛から排出される優良堆肥の活用により低温・干ばつに強い土づくりを進め、クリーン農業への取り組みを推進する。

注　１　（１）に記載した番号に対応する事業について、単年度の状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。

（２）実施内容について

No	事　業　名	計　画　内　容	実　施　状　況	効　果　・　課　題	今　後　の　展　開
15	強い酪農づくり推進事業	・肉牛「短角種」６０頭出荷	・契約販売者（らでぃっしゅぼーや）へ肉牛「短角種」５５頭出荷	（効果）道内で２町のみの生産「短角種」の契約販売により生産性の確保が図られた。 （課題）経営基盤の脆弱さ	環境負荷が少ない「短角種」の安定した生産性に努めブランド強化を図るとともに、契約販売による経営の安定化を図る。
16	しゃこたんブランドＰＲ事業	・高知県香美市（姉妹都市）の伝統イベントへ参加 ・香美市内商店での販売及び学校給食メニューとして特産品ＰＲ	・１０月１７日～２０日、高知県香美市土佐山田（姉妹都市）の伝統イベント「刃物まつり」 ・当町から訪問団７人を派遣し、「積丹町北海物産市場」を出店し特産品販売	（効果）カボチャやジャガイモなど農産物を安価で販売しながら産地情報のＰＲを行い、ブランド力の強化が図られた。	イベントのみならず、香美市の学校給食メニューとして、また商店での販売など新たな流通ルートの拡大を目指す。
17	積丹ソーラン味覚祭り	・農水産物、加工品の販売 ・国内外観光ツアー誘致による新たな観光ルートの確立	・６月２９日、美国漁港広場 ・町内外から２万人を集客 ・農水産物、加工品の販売	（効果）ブランド力のある「積丹」と「ウニ」を全面に押し出し、２万人を集客し、地元農水産物のＰＲとともに、町内商店への購買力向上へ波及が見られた。	集客イベントとして継続実施により、農水産物のＰＲと消費拡大を目指す。
18	どっこい積丹冬の神	・鮨と７種のオリジナル鍋の販売 ・古平町、赤井川村と連携した広域的事業の展開	・１２月１日　岬の湯しゃこたんで「鍋の競演」開催 ・４００人集客し、７種のオリジナル鍋の販売 ・古平町、赤井川村と連携した広域的事業の実施	（効果）旬の自然素材を生かした冬季イベントとして定着し、外国人旅行業者を対象としたツアーを実施し、積丹町の指名度アップに繋がった。	集客イベントとして継続実施により、農水産物のＰＲと消費拡大を目指す。
19	地場産品販売促進事業	・地元産農水産物の直売、加工・販売、開発	・岬の湯しゃこたんに隣接する岬の市場で町地場産品販売促進協議会会員による地元産農水産物の販売	（効果）鮮度の良さと生産者の顔が見える品質の安全性で地場産品の町内販売と消費拡大が図られた。	地域資源を生かした限定商品の開発など、地場産品の消費拡大を目指す。
20	生き活きまつり	・地元産農水産物の販売 ・サケ鍋５００食の無料提供	・９月２８日、美国町憩いの広場 ・地元産農水産物の販売 ・サケ鍋５００食の無料提供	（効果）カボチャやジャガイモなど農産物を安価で販売しながら産地情報のＰＲを行い、ブランド力の強化が図られた。	集客イベントとして継続実施により、農水産物のＰＲと消費拡大を目指す。
21	しゃこたん夢あかり	・スノーキャンドル作成 ６，３００本	・２月１４日　町内全域 ・スノーキャンドル作成 ３，２７１本 ・特設屋台村の開催	（効果）全町的な広がりを見せ、キャラクターなど工夫を凝らした雪像を見物に、町外からも多数来町し町の活性化が図られた。 （課題）広域的な事業展開	近隣町村への呼びかけにより広域的な夢あかりの路を目指す。

注　１　（１）に記載した番号に対応する事業について、単年度の状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。

（２）実施内容について

No	事　業　名	計　画　内　容	実　施　状　況	効　果　・　課　題	今　後　の　展　開
22	しゃこたん鍋販売事業	・札幌近郊で行われる各種イベントでのウニ丼や浜鍋等の販売	・さっぽろオータムフェスト（札幌市9/20・21）のほか小樽市、倶知安町など各種イベントでのウニ丼や浜鍋等の提供	（効果）浜鍋やウニ丼、ホッケのすり身などを安価で販売し、産地情報のＰＲを行い、ブランド力の強化が図られた。	各種イベントに参加し、浜鍋のほかこれまで得た情報から販売メニューを整理し、しゃこたんブランドの一層の強化を図る。
23	積丹町グリーンツーリズム体験・交流事業	・農作業体験 ・「食」をテーマとしたイベントの開催	・１１月４・５日　積丹半島ゆとりツーリズムモニターツアー　開催 ・１１月１５日　町総合文化センターで「鮨と鍋」開催 ９１４人を集客し、すし８カンセット３千食など	（効果）商談会など様々な機会を通じ「食」と「自然」に加え、かんじき歩行体験など体験型観光の取り組みをＰＲし、積丹町の知名度アップに繋がった。 （課題）受け入れ体制の環境づくり。	国内外旅行業者を対象とした商談会に積極的に参加し、地域らしさを生かした体験･交流型観光をＰＲし、観光客誘致を促進する。
24	観光ホスピタリティ推進事業	・外国人観光客向け観光パンフレットの作成 ・観光ボランティア育成	・観光パンフレット（英語対応版含）４万部作成 ・英語版ホームページ修正 ・観光フォトコンテスト実施 ・外国人接遇研修会への参加（3/10）	（効果）全国誌へ観光フォトコンテスト入選作品の掲載や英語版ホームページの構築など広域的なＰＲが図られた。 （課題）年々増加する外国人観光客に対する受け入れ体制の環境づくり。	外国人を含めた観光客への接客マナーの向上を目指し受け入れる側としてのおもてなしの心を身につけ、観光客が求めている動向を的確にとらえ訪れる人が快適に観光できる環境づくりに努める。
25					
26					
27					
28					

注　１　（１）に記載した番号に対応する事業について、単年度の状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。